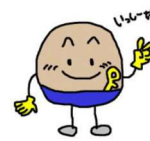


悠紀だより



令和5年9月27日 発行責任者 校長 野澤 初美

本校の学力・学習状況をお知らせします

本年度の全国学力・学習状況調査は4月18日（火）に、全国の小学校第6学年及び中学校第3学年の全児童生徒を対象に実施されました。本校でも、6年生43名が参加しました。

調査内容は、大きく①教科に関する問題（国語・算数）と、②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査に分かれています。

この調査は、本校の児童の学力や学習状況を把握・分析し、各教科における課題や生活状況の実態を明らかにすることにより、今後の指導内容・指導方法の改善や生活指導などに役立てることを目的とします。

先日、文部科学省から本校の結果が送られてきました。その結果を受けて調査結果の分析を行ってまいりました。この度分析結果がまとまりましたので、その概要を保護者の皆様にお知らせするとともに、本校のホームページにも掲載していきたいと思っております。

なお、調査に参加しました6年生一人一人には、個人票をもとに、具体的に課題等について説明していく予定です。よろしくお願いいたします。

分析結果の概要

1 本校の状況（全国との比較）

国語、算数の2科目とも数値としては、本校の6年生の学力・学習状況は全国平均を上回っていると分析されます。この調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもあるように、全国平均正答率のプラスマイナス5ポイントの範囲にあるものを、ほぼ同等であると考えています。

2 教科ごとの状況

各教科、設問ごとに、全国平均と同等、または上回っているものには○、大きく上回っているものには◎、下回っているものには◇を記し、「・」には具体的な状況を述べました。

国語

□1 情報と情報との関係を捉えたり、グラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫したりすることができるかどうかをみる問題。

設問一 ◎原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかは、全国平均を上回っている。ただし、【カード②】の下線部「雑草の量が増えてきた」ことが結果で、【カード③】の下線部「雑草の量に対して雑草取りが追いついていない」ことが原因であるという関係を結び付けて捉えることができている児童も多くみられた。

設問二 ◎図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかは全国平均を大きく上回っている。ただし、正答人数は多いとは言えない。本校で重点的に指導すべき内容だと考えられる。

- ・【川村さんの文章】の グラフと【カード④】のそれぞれから分かる学校の米作りの問題点と、【カード⑤】を基にした問題点の解決方法を、60字以上、100字以内で書くことが求められていたが、すべての条件を満たした解答ができなかった児童がみられた。無回答はみられなかった。

設問三 ○学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうか、送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかは、「期間」「比べて」の正答率は高かったが、「意外」を「以外」と誤る児童がややみられた。本校で引き続き重点的に指導すべき内容である。

設問四 ○文章の種類とその特徴について理解しているかどうかは、全国平均を上回っている。【川村さんの文章】が、調査で明らかになったことを整理して説明している文章であることを捉えることができおり、文章の種類とその特徴について理解している児童が多くみられた。

□ 2 目的に応じて必要な情報を見付けたり、情報を関係付けて整理したりして、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

設問一 ◎目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかは、全国平均を上回っており、運動の効果が書かれていることと、種類が書かれていることを捉えることが全員できていた。

設問二 ○目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかは、全国平均を上回っている。「筋力を高める運動」が「瞬間的に大きな力を出す」ものであることと、その例が「腹筋運動」と「腕立てふせ」であることを捉えることができている児童が多くみられた。

設問三 ◇情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかは、全国平均を下回っており、本校で重点的に指導すべき内容である。

- ・自分にとって重要な言葉を整理していることを捉えることはできているが、運動と栄養素の働きを関係付けていることを捉えることができず、食品と栄養素の働きと誤って捉えた児童がやや多かった

設問四 ○文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかは、全国平均を上回っている。運動と食事の両方について分かったことと、分かったことを基に、これから自分ができそうなことを、80字以上、100字以内で書けた児童が多くみられた。

- ・逆に、運動について分かったことと、分かったことを基に、これから自分ができそうなことを書いているが、食事について分かったことを書いていない児童がややみられた（設問□1の二の誤答と同様）。記述問題であるが無回答はみられなかった。

□ 3 話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる問題

設問一 ◎必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの内容を捉えることができるかどうかは、(1)(2)ともに全国平均を上回っている。質問の内容が、自分の理解が正しいかどうかについて、相手に確かめるためのものであることや相手の話の内容について、より具体的に知るためのものであることを捉えることができている児童が多くみられた。

設問二 ◎目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかは、全国平均を大きく上回っている。寺田さんと山本さんの二人が、どのような思いでボランティアを続けているのかについて分かったことを、【インタビューの様子】の寺田さんと山本さんの発言の中から言葉や文を取り上げながら、40字以上、60字以内で書けた児童が多くみられた。

設問三 ◎日常よく使われる敬語を理解しているかどうかは、全国平均を大きく上回っている。「言う」などの尊敬語と「聞く」などの謙譲語について理解している児童が多くみられた。

算 数

□ 1 日常生活の場面の数量の関係に着目し、伴って変わる二つの数量の関係について考察できるかどうかをみる問題。

- 設問 1 ○伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかは、全国平均を上回っている。
- ・椅子の数と高さの規則性を見付けることができず、椅子の数が4脚のときの高さ 63cm に、そのときの椅子の数4脚を足していると考えられる児童が若干みられた。
- 設問 2 ○伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかは、全国平均を上回っている。
- 設問 3 ◎伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかは、全国平均を大きく上回っている。
- ・誤答としては、示された場面の状況を捉えることができず、4脚の重さが7kgであることを、誤って1脚の重さが7kgであると捉え $7 \times 4 = 28$ と答えた児童がややみられた。
- 設問 4 ○一の位が0の二つの2位数について、乗法の計算をすることができるかどうかは、全国平均を上回っている。
- ・十を単位としてみて、50を5、40を4として、 $5 \times 4 = 20$ と計算し、100倍するところを誤って10倍して200と解答したり、 $5 \times 4 = 20$ と計算し、10のまとまりが20個で200と解答したりしている誤答が若干みられた。

□ 2 基本的な図形の意味や直線の位置関係について理解し、図形を構成する要素などに着目して図形の性質や図形の計量について考察できるかどうかをみる問題。

- 設問 1 ◎台形の意味や性質について理解しているかどうかは、全国平均を大きく上回っている。
- ・示された四角形を台形と捉えることはできていたが、台形について向かい合った角の大きさが等しいと捉えていた児童が若干みられた。
- 設問 2 ◎正方形の意味や性質について理解しているかどうかは、全国平均を上回っている。
- ・示された操作によってできた四角形について、辺の長さに着目できず、四つの角が全て直角であることから、長方形と誤答した児童が若干みられた。
- 設問 3 ◎正三角形の意味や性質について理解しているかどうかは、全国平均を大きく上回っている。
- ・正三角形の一つの角の大きさが 60° になることは理解しているが、テープを切って開いたことに着目できておらず、示された操作によってできる三角形の求める角の大きさが 60° になると捉えた子も全国平均を上回っており、重点的に指導すべきと考えられる問題である。
- 設問 4 ◎高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大きさを判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかは、全国平均を大きく上回っているものの、正答率は高いとは言えず、本校で重点的に指導すべき内容である。
- ・誤答については、高さについて具体的な長さが示されていないことを記述し、三角形<お>と三角形<か>の面積はこのままでは比べることができないと判断した児童が全国平均を上回っていた。

□ 3 数量の関係に着目して問題場面を解釈し数学的に表現・処理したり、計算に関して成り立つ性質を基に計算の仕方を考えたりすることができるかどうかをみる問題。

- 設問 1 ○()を用いた式や、加法と乗法の混合した式を場面と関連付けて読み取ることができるかどうかは、全国平均を上回っている。
- ・()を用いた式において $5 + 4$ は国語辞典1冊の厚さ5cmと漢字辞典1冊の厚さ4cmを合わせた長さであることを読み取ることができているが、加法と乗法の混合した式において 5×28 は厚さ5cmの国語辞典28冊分の長さであることを読み取ることができていない児童が若干みられた。

- 設問2 ○示された日常生活の場面を解釈し、小数の加法や乗法を用いて、求め方と答えを式や言葉を用いて記述し、その結果から条件に当てはまるかどうかは、全国平均を上回っている。
- ・以下の求め方ABCのうち、①と②のどちらかが欠けていた児童がみられた。
 - A ①3種類のファイルの厚さを合計して一人分のファイルの長さを求め、②その23人分の長さを求めている。
 - B ①3種類のファイルごとに23人分の長さを求め、②それらの合計を求めている。
 - C ①2種類のファイルの厚さを合計し、その23人分の長さとして、②残りの1種類のファイル23人分の長さの合計を求めている。
- 設問3 ○加法と乗法の混合した整数の計算をしたり、分配法則を用いたりすることができるかどうかは、全国平均を大きく上回っている。
- ・誤答としては、()を用いた整数の計算をすることはできているが、加法と乗法の混合した整数の計算では、乗法を先に計算せずに、式の左から順に計算している児童が若干みられた。
- 設問4 ○(2位数)÷(1位数)の筆算について、図を基に、各段階の商の意味を考えることができるかどうかは、全国平均を上回っている。
- ・図と関連付けて、商の十の位にたてた「2」が60を3等分した結果であると捉えることができなかった児童がみられた。

□4 日常生活の問題を解決するために、目的に応じて、表やグラフからデータの特徴や傾向を捉えることができるかどうかをみる問題

- 設問1 ○百分率で表された割合について理解しているかどうかは、全国平均を大きく上回っている。
- ・以下の誤答をした児童がややみられた。
 - ・30%について、100人を基準量としたとき、それに対する比較量を捉えることはできているが、10人や30人を基準量としたとき、それらに対する比較量を捉えることはできていない。
 - ・30%について、10人を基準量としたとき、それに対する比較量を捉えることはできているが、100人を基準量としたとき、それに対する比較量を捉えることはできていない。
- 設問2 ○「以上」の意味を理解し、示された表から必要な数を読み取ることができるかどうかは、全国平均を大きく上回っている。
- ・示された表の合計欄から、運動した時間の合計について、30分以上に「30分」を含めていない日数を解答している児童が若干見られた。
- 設問3 ○示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合わせたグラフを読み、見いだした違いを言葉と数を用いて記述できるかどうかは、全国平均を大きく上回っている。
- ・問いに正対できず、想定された誤答以外の解答をした児童がやや見られた。
- 設問4 ○二次元の表から、条件に合う数を読み取ることができるかどうかは、全国平均を大きく上回っている。

3 教科における主な改善点

国語

問題の項目ごとに

- 1 ・自分の考えが伝わるように書く際には、図表やグラフなどを用いるなどして、書き表し方を工夫することが大切である。図表やグラフなどを用いるのは、示すべきことが、図解したり、表形式やグラフ形式で示したりした方が分かりやすい場合である。観察や実験、調査の結果などを記述する際に、図表やグラフを用いることで、自分の考えを深めたり、相手にとってよく理解できるものにしったりするような文章の作成を指導する。

本校では、特に以下の点について指導する。

- 一 原因と結果など情報と情報との関係を捉えて整理することができるようにする。
- 二 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する。引用した図表やグラフの出典については必ず明記するとともに、引用部分が適切な量になるようにする。図表を用いる場合には、本文に「図1は、～」、「表1は、～」といった表現を用いて本文との関連を示すこと。

三 漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に担当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に担当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うようにする。

- 2 ・文章を読んで自分の考えをまとめる際には、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既存の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが大切である。設問三では、第5学年及び第6学年の〔知識及び技能〕の(2)情報の扱い方に関する事項「イ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。」を取り上げている。図示などにより語句と語句の関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができるように指導する。

本校では、特に以下の点について指導する。

二 文章を読む際には、文章中に用いられている図表などが、文章のどの部分と結びつくのかを明らかにした上で、必要な情報を見付けることができるようにすることが重要である。文章と図表などを結び付けて読むことで、内容についてより深く理解したり解釈したりすることができることを実感できるようにする。

三 情報と情報との関係付けの仕方として図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して、考えをより明確なものにしたり、思考をまとめたりすることができることを理解し、そのよきを実感できるようにする。

四 文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既存の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが重要である。そのために、文章を読んで理解したことと、自分の考えとの関係を意識してまとめることができるようにする。

- 3 ・話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることができるように指導する。

本校では、特に以下の点について指導する。

一 インタビューをするとは、目的をもって特定の相手に質問し、必要な情報を聞き出すことである。その際、聞いた事柄を基に分からない点や確かめたい点を質問できるようにする。

二 話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要である。その際、話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめるようにする。

三 日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切である。日常生活の実際の場面を通して、尊敬語と謙譲語について理解できるようにする。

算 数

- 1 算数の学習では、ある数量を調べようとするときに、児童自らがそれと関係のある数量を見いだして数量の間になどのような関係が成り立つのかを予想したり、数や場面を変えても同じように関係が成り立つのかを考えたり、なぜそのような関係が成り立つといえるのかを表現したりすることが重要である。そのために、例えば、伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見付けていくことができるようにすることが大切である。さらに、見付けた規則性を基に、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにすることも大切である。

本校では、特に以下の点について指導する。

- ・ 伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見付けていくことができるようにすること。
- ・ 伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察できるようにすること。
- ・ 伴って変わる二つの数量の関係について、変化の特徴を考察して規則性を見付け、見付けた規則性を基に、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにすること。

- 2 図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、基本的な図形概念や直線の位置関係について理解し、図形を構成する要素などに着目して図形の性質や図形の計量について考察することが重要である。

そのために、例えば、観察や構成などの活動を通して、直線の平行や垂直の関係と、図形を構成する要素などを関連付けて、図形の性質や図形の計量について考察できるようにすることが大切である。また、図形を構成する要素やそれらの位置関係を基に、図形の構成の仕方について考察できるようにすることも大切である。

本校では、特に以下の点について指導する。

- ・ 図形の観察や構成などの活動を通して、図形の性質について考察し、示された図形の角の大きさを求めることができるようにすること。
- ・ 二つの三角形の面積の大小を判断するために、平行な二つの直線の幅はどこでも等しいことに着目し、示された三角形の底辺と高さを適切に捉えることができるようにすること。

- 3 算数の学習では、日常生活の事象を数理的に捉え、式に表現して処理したり、計算に関して成り立つ性質を活用して、計算を工夫したりすることが重要である。そのために、例えば、日常生活の場面を式に表したり、式を場面と関連付けて読み取ったりすることを通して、問題の解決に式を用いることができるようにすることが大切である。また、問題場面の数量の関係に着目したり、計算の結果を振り返ったりすることで、計算に関して成り立つ性質に気付いたり、計算の仕方について捉え直したりすることができるようにすることも大切である。

本校では特に以下の点について指導する。

- ・ 計算の順序についてのきまりや計算に関して成り立つ性質について理解し、計算に習熟したり、計算を工夫したりすることができるようにすること。
- ・ $(2\text{位数}) \div (1\text{位数})$ の筆算について、計算に関して成り立つ性質や図を基に、各段階の商の意味を考えることができるようにすること。

- 4 日常生活の事象について、目的に応じた適切な分類整理の仕方やグラフの表し方を判断し、データの特徴や傾向に着目して考察することが重要である。そのために、例えば、興味・関心や問題意識に基づき、問題を設定し、目的に応じてデータを収集し、表やグラフに表したり読んだりすることや、割合などで表されたデータの特徴を理解できるようにすることが大切である。また、データの特徴や傾向を捉え、結論を導いたり、結論について考察したりすることができるようにすることも大切である。

本校では特に以下の点について指導する。

- ・ 示された割合から、基準量を具体的に決めて、それに対する比較量を捉えることができるようにする。

4 質問紙調査の結果について

質問紙調査は、学校や家での勉強や生活の様子（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等）について、59の質問項目により実施されました。

子どもたちの更なる成長にいかすという観点で、石田小学校の質問紙調査の結果を分析しました。また、本校児童の特徴的な様子も明らかとなりましたので以下にご報告いたします。

質問紙調査の主な特徴

- 挑戦心、達成感、規範意識、自己有用感、幸福感等
- 【自分には、よいところがあると思いますか】86.7%【先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか】97.7%の肯定的な回答をしている児童が、県・全国を上回っており、自己肯定感の高さが感じられる。
- 【将来の夢や目標を持っていますか】では、88.9%の児童が肯定的に回答し、県・全国を上回っており、前向きに将来を考える児童が多い。
- 【学校に行くのは楽しいと思いますか】93.3%【友達関係に満足していますか】93.4%【普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか】93.3%の児童が肯定的にいずれも県・全国を上回っており、充実した学校生活やと友達関係の様子がうかがえる。

○●【困りごとや不安があるときに、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか】88.9%の児童が肯定的に回答し、県・全国を上回っている。一方、約1割の児童が相談できないと回答していることから、教師側から声をかけるなど、相談しやすい体制づくりが必要である。

□主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組状況

○【自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか】では、肯定的に回答した児童が82.2%いて、県や全国と比べると大きく上回っている。

○【課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか】84.2%【友達と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか】91.2%【授業で学んだことをほかの学習で生かしていますか】93.4%と肯定的に回答した児童がいて、県や全国と比べると大きく上回っていることから、学習に対する意欲があり、自ら考える児童の姿がうかがえる。

○【自分にあった考え方、教材、学習時間などになっていましたか】95.5%【自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか】88.9%と肯定的に回答した児童がいて、県や全校と比べると大きく上回っている。授業に対して受け身ではなく、積極的に取り組み、無理のない学習形態や学習方法であったことがうかがえる。

□学習に対する興味・関心や授業の理解度等

○【先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思うか】では、100%の児童が肯定的な回答をしている。

○【5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか】95.5%【授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか】93.4%の児童が肯定的に回答し、県・全国を大きく上回っている。

○【国語の勉強は大切だと思いますか】【算数の勉強は大切だと思いますか】【映画の勉強は大切だと思いますか】【国語の授業の内容はよく分かりますか】【算数の授業の内容はよく分かりますか】では、どの質問に対しても9割以上の児童が肯定的に捉え、学習することの大切さを感じている。また、学習内容を理解できていると自覚している児童が多い。しかし、一人一人が理解できるように今後も個別に支援していくこと学習指導を行っていききたい。

●【家で自分で計画を立てて勉強していますか】では、「あまりしていない・全くしていない」と回答した児童が22.2%いる。また、【学校の授業時間以外に、普段(月～金)、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。】【土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか。(学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む)】では学習塾等も含めて3時間～4時間以上学習している児童がいる反面、1時間より少ない児童の割合が約3割いて、大きく2極化している。

●【昼休みや放課後、学校が休みの日に、本(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館にどれくらい行きますか】では、「ほとんど全く行かない」と約3割の児童が回答している。週4日、本校では朝活動で読書タイムをとっているが、学校図書館の興味ある活動が今後必要だと考える。

□地域や社会に関わる活動の状況等

○【今住んでいる地域の行事に参加していますか】では、62.2%の児童が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と回答している。コロナ禍により、地域の行事も制限があったことで行事も減り、参加しなかったことが考えられる。その一方で【地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか】では、82.3%の児童が肯定的に捉えていることから、コロナが5類に引き下がったこれからは、地域と関わる活動の情報発信を学校も行っていききたい。

○【外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたい】では、77.7%、【日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたい】では、93.4%の児童が「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」と肯定的に捉えていて、国際社会へ目を向けた姿勢がうかがえる。

□ICTを活用した学習状況

○【5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか。】では、「ほぼ毎日11.1%・週3回以上55.6%・週1回以上22.2%」と回答があり、端末の使用をしてきた

ことがわかる。ICT 機器の効果的な活用についてさらに今年度学校全体で加速して授業改善を行っている。

- 【学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思うか】では、95.6%の児童が役に立つと思うと肯定的に回答している。家庭学習としてタブレットの持ち帰りを積極的に行い、タブレットを使って学習することで、児童自らが役立つと感ずることができている。

質問紙調査からの改善点

今回の調査結果からは、概ね肯定的な回答が多く、安定した学校生活の様子や良好な人間関係の様子等が見られた。学校教育目標である、「自ら学び、認め合い支え合う、健やかな子」の具現化に向け、一定の成果をあげていると判断している。しかし、本校の児童が県・全国を上回った肯定的な意見の質問に対して、「どちらかといえば当てはまらない」「当てはまらない」と回答する児童も一方いる。少ない割合であっても、これまでの取組に甘んじることなく、丁寧に一人一人の児童を指導・支援していきたい。

- クロームブックを日常の文房具として授業に活用し、児童一人一人が主語となる学習者主体の授業改善を学校全体で行う。
- 学年の発達段階に合わせた系統的な情報活用能力(クロームブックの活用)を身に付けさせる。また、自立した情報モラルの定着を図る。
- 家庭学習時間(学年×10分)の習慣化と学習内容の質を重視し、課題の提供や自学に対する努力を大切にす声かけをご家庭にも協力をしていただくとともに、これからも全教職員で個別最適な学びの授業改善に取り組む。
- 人権教育、SOSの出し方に関する教育について学校全体で取り組むとともに、学級活動の充実を図る。
- 道徳教育については、道徳の授業を要として学校の教育活動全体を通してすすめていく。さらに、授業では、「自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動」に取り組んでく。
- 魅力ある学校図書館を目指し、読書週間等を活用して読書に親しむ活動を行う。また、図書館を学習センターとしての機能の充実も行っていく。
- 地域の行事については、地域との繋がりを大切にする中で、どのような活動ができるのか、コミュニティ・スクールや自治会との連携を図り、情報を学校からも発信していく。
- 将来に夢や目標を持つことや国際理解や社会に目を向ける児童を育てるために、外部講師や地域団体との交流を持ち、児童が教師以外の様々な職業の大人からの話を聞き、学ぶ機会を積極的にとる。

5 保護者・地域の皆様へ

今回の『全国学力・学習状況調査』は6年生のみの調査ですが、国語・算数の問題は、小学1年生を基礎に、小学5年生までの学習内容から出題されています。低学年からの積み重ねが重要です。

そこで、、、

- ①既習の漢字は、日常生活の中で、進んで書くように声かけをお願いします。
- ②授業中の学習用具の準備・学習態度・家庭学習の習慣等、1日1日の日頃の積み重ねが非常に大事です。家庭学習の時間については、全国の質問紙調査の結果からも、「学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日あたり、勉強をする時間が長いほど、教科の正答率が高い傾向が見られる」となっています。家庭学習時間として学年×10分を目安に、落ち着いて学習する習慣をつけていただきたいです。
- ③文章が長い問題もあります。そのため、長い文章を読むことに対して、やや苦手を感じてしまう児童もなかにはいます。興味のある新聞記事や本を読む習慣をつけるとさらに読解力がつきます。児童が読んでいるときは、是非ご家庭でもそのときにスマホやテレビ等使わずに、保護者の皆様も読書に親しむ姿を見せていただくと有り難いです。

学校では、学習面、生活面において、児童が分からないことや困ったこと等あったときに質問しやすい環境、相談しやすい環境づくりを今後も行っていきます。

これからも、保護者の皆様・地域の皆様のご理解・ご協力をお願いいたします。

*このお便りは学校HPやスクリーンでも配信いたします